

## 事業概要書

事業名	人と人をつなげる熱海伊豆山復興プロジェクト				
開始日	2021年11月12日	終了日	2022年3月31日	日数	140
団体名 (カウンターパート)	任意団体テンカラセン				
担当者名	高橋一美	スタッフ人数	12人		

事業費総額 (税込)	1,000,000 円
CF 事業枠	1,000,000 円
その他資金	0 円

事業目的	土石流被害を受けた熱海市伊豆山地区において、地元住民が立ち上げた任意団体テンカラセンの運営体制を整え、住民の見守りなど人と人をつなぐ活動を行うことで、復旧・復興を後押しし、誰もが住みやすいまちをつくることに貢献する。
事業全体の概要	<p><b>●テンカラセンとは</b></p> <p>2021年7月3日に熱海市伊豆山で発生した大規模土石流による被災を受けて、地元住民有志が、SNSによる被災地の状況や支援情報の発信、地元住民有志による在宅避難高齢者への弁当配達、浜地区防災センターへの支援物資の運搬などの活動を行った。</p> <p>伊豆山の復旧・復興と地域の賑わいを取り戻すためには、有志による活動を組織化し、支援者とも協力しながら活動を継続していく必要があるため、10月3日、任意団体テンカラセンを立ち上げた。</p> <p>テンカラセン代表の高橋一美氏は、熱海市伊豆山地区で弁当店「喜余味（きよみ）」を経営。同店は祖父の代に青果店として創業し、卸業を経て、現在の弁当店になった。地域住民への小売りに加え、事業所への宅配や仕出し弁当の販売を行なっている。熱海青年会議所第59代理事長や伊豆山神社厄年奉賛会副会長などを歴任。</p> <p><b>●テンカラセンの目的と役割</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>任意団体の運営体制を整える。</li> <li>活動を行うにあたり必要な情報を収集し、団体内で共有する。</li> <li>定期的にミーティングを開催し、課題や取り組みについて協議する。</li> <li>日々の活動を記録し、広報することで、住民に活動内容を周知するとともに、共感者・支援者を獲得する。</li> <li>活動資金を適切に管理し、有効活用する。</li> </ol> <p><b>●取り組むべき課題</b></p> <p>熱海市の高齢化率は47.8%で静岡県内の市町のうち最も高く、中でも伊豆山地区は高齢者が5割を超えられている。土石流で亡くなった人の多くも高齢者だった。</p>

災害の影響で国道や市道が通行できなくなり、地域は東西に分断。路線バスが運休したことで、自動車を持たない住民は買い物や病院に行くことができなくなった。

7月29日に国道の通行止めは解除され、一部の区間を除き路線バスの運行が再開したものの、新型コロナウイルスによる自粛生活も重なり、高齢者は外出したり、人と接したりする機会が減少している。高齢者が家に閉じこもり誰とも話さないようになると、ふさぎ込みやすくなり、身体能力や認知機能も低下する危険性がある。

伊豆山地区では、要援護者・独居・持病があるなど、自力では避難することが困難な住民もいるが、このような住民情報は行政も把握できておらず、緊急時に必要な人に必要な支援ができなかったり、孤独死につながったりすることが懸念されている。

本事業では、熱海市内の有志が任意団体を立ち上げ、伊豆山の復旧・復興に向けた取り組みを行うための体制を整える。

また、伊豆山に団体の活動拠点兼コミュニティスペースを設置することで、住民ニーズを把握し、住民同士が集まれる場を提供する。

さらに、伊豆山の高齢者世帯が抱える課題に対応するため、外出が困難な高齢者宅を定期的に訪問する見守り活動を行う。

これらの活動を通じて、人と人がつながりお互いに支え合う機会を提供し、地域の住民が生き生きと暮らせる伊豆山をつくる事を目指す。

#### ● パートナー協働プログラム対象事業

##### ① 継続的な活動のための団体基盤強化

10月3日、発生直後に支援活動を行ったメンバーが中心となり、伊豆山の復旧・復興に向けて継続的に活動する任意団体テンカラセンを立ち上げた。

団体の活動を開始するにあたり、銀行口座の開設、ボランティア活動保険への加入、連絡体制の整備、情報発信の準備（SNSアカウント開設など）、事務用品・機器、ユニフォームの購入などを進める。

本事業終了後の活動資金を確保するため、ホームページ及びSNSによる寄付金の呼びかけ、クラウドファンディング、助成金などを通して資金を調達する。

また、団体の活動拠点として、伊豆山浜地区にある浜会館4階の賃貸スペースを借り、住民が集まれるコミュニティスペースとしても活用する。

##### ② 高齢者の見守り活動と住民情報リスト・緊急連絡網の作成

伊豆山は急な坂や階段が多く、市から配給された弁当を公民館まで取りに行くことができない高齢者がいたため、地元のボランティアが弁当や物資を届ける活動を行った。この活動で住民の安否を確認するとともに、住民とボランティアが会話することで、災害で外出する機会が少なくなった高齢者が人と会話する機会を提供することができた。

本事業では、弁当配達活動で得られた効果を継続・発展させる為、伊豆山の浜、仲道、岸谷の3地区の高齢者宅を定期的に訪問する。訪問時に安否を確認し、必要に応じて専門機関につなぐ。また、自宅に籠もりがちな高齢者の話し相手になることで、心のケアにつなげる。物資を必要とする世帯については、適宜物資を調達・提供する。

ワクチン未接種のスタッフが見守り活動に参加する際は、事前に PCR 検査または抗原検査を受け当日、検温・消毒・マスク着用などの感染対策を徹底する。

伊豆山の住民の中には、高齢者を中心に緊急時に支援が必要な人も多くいるが住民情報を把握できていないため、支援が届かない危険性が指摘されている。そこで、見守り活動を通じて要援護者・独居・持病があるなどの住民情報の聞き取りを行い、緊急対応の住民リストと連絡網を整備する。災害などの緊急時には、そのリストを活用し必要な人に必要な支援を届ける活動を展開する。

住民情報の取り扱いについては、団体スタッフは個人情報保護・秘密保持に関する誓約書に署名し、個人情報取扱規定を遵守して厳重に管理する。

また、本事業の実施にあたっては、町内会、民生委員、熱海市役所、熱海市社会福祉協議会など、関係者や他団体とも連携を密にしながら進める。

### ●期待される効果

#### ①継続的な活動のための団体基盤強化

- ・地元住民主体の団体を立ち上げ、団体基盤を強化することで、効果的な活動を継続するとともに、広報活動を通じて支援の輪を広げることができる。
- ・伊豆山に活動拠点兼コミュニティスペースを設置することで、住民ニーズを把握し、地域に根ざした活動を効率的に行うことができる。
- ・住民が困り事などを気軽に相談したり、住民同士のつながりを維持したりすることができる。

#### ②高齢者の見守り活動と住民情報リスト、緊急連絡網の作成

- ・高齢者の見守り活動を通して伊豆山の高齢者の安否確認と心のケアができる。
- ・住民情報リストと緊急連絡網を整備することで、緊急時に要援護者へ支援を届けられる。

#### 【事業全体を通じた効果】

- ・本事業終了後も、テンカラセンが人と人をつなぐ地域に根ざした活動を継続することができる。
- ・住民の安全・安心の確保、高齢者が生活しやすい環境づくり、人と人のつながりの促進に貢献し、ひいてはより生き生きと暮らせようと思える伊豆山を実現させる。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

#### ① 継続的な活動のための団体の基盤強化

- ・任意団体運営に必要な事項の決定、手続き等を進める。
- ・活動するために必要な物品等を調達する。
- ・活動拠点兼コミュニティスペースを設置する。

伊豆山の住民約 3,300人

<p>② 高齢者の見守り活動と住民情報リスト・緊急連絡網の作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊豆山3地区の高齢者宅などを2週間に1回程度訪問する。</li><li>・訪問時にヒアリングを行い、必要に応じて専門機関へつなぐ。</li><li>・住民情報リストと緊急連絡網を作成し、緊急時の支援活動で活用する。</li></ul>	<p>伊豆山の外出が困難な 住民約100人</p>
--	-------------------------------